

おおてみち

第52号

平成17年(2005年)7月15日
滋賀県立安土城考古博物館

財団法人滋賀県文化財保護協会設立三五周年記念展
滋賀県立安土城考古博物館第三〇回企画展 滋賀県立琵琶湖文化館特別陳列

『聖武天皇とその時代』 —天平文化と近江—

安土会場 (滋賀県立安土城考古博物館)
平成17年7月16日(土)
9月11日(日)

大津会場 (滋賀県立琵琶湖文化館)
平成17年8月6日(土)
9月11日(日)

財団法人滋賀県文化財保護協会は、昭和四五年四月に設立され、本年はその三五周年の節目を迎えました。滋賀県文化財保護協会は、設立以来今日まで、県下の数々の遺跡の発掘調査を実施してまいりましたが、近年では、東国行幸に関する膳所城下町遺跡や、大仏造立に関わる鍛冶屋敷遺跡などの調査を進め、甲賀市教育委員会が進める宮町遺跡(紫香楽宮)の調査と併せて、聖武天皇に関する調査が話題を呼びました。

今回の展示は、滋賀県文化財保護協会の設立三五周年を記念し、滋賀県立の安土城考古博物館と琵琶湖文化館が協力し、聖武天皇とその時代を、県内外の、発掘調査による最新の成果と、天平文化の精髓を示す美術資料から探り、聖武天皇時代の近江の実像に迫ります。



▲大津市膳所城下町遺跡の大型掘立柱建物



▶甲賀市信楽町鍛冶屋敷遺跡全景

「関連行事」(いずれも当日先着受付順、参加無料)

■記念講演会

平成17年8月7日(日) 13時30分〜17時
会場 ビアザ淡海

「紫香楽宮の造営と難波宮」

講師 大阪市立大学名誉教授 直木孝次郎氏

「天平彫刻について」

講師 同志社大学教授 井上一穂氏

■記念シンポジウム

平成17年8月14日(日) 13時〜17時
会場 安土城考古博物館

基調講演 「聖武天皇の東国行幸」

学習院大学講師 遠山美都男氏

事例報告1 「大津市膳所城下町遺跡の調査」

(財)滋賀県文化財保護協会主任 大崎哲人

事例報告2 「甲賀市鍛冶屋敷遺跡の調査」

(財)滋賀県文化財保護協会主任 畑中英一

■博物館講座

平成17年7月24日(日) 13時30分〜15時
会場 安土城考古博物館

「紫香楽宮と甲賀寺」

講師 甲賀市教育委員会文化財係長 鈴木良章氏

平成17年9月11日(日) 13時30分〜15時
会場 安土城考古博物館

「東大寺の考古学」

講師 奈良県立橿原考古学研究所主任研究員 平松良雄氏

■名作映画鑑賞会

平成17年9月4日(日) 13時30分
会場 安土城考古博物館

「大仏開眼」(一九五二年 大映作品)

*定員はビアザ淡海四二六名、当館一四〇名

聖武天皇は天武天皇を曾祖父に、天智天皇を大祖父に持ち、天皇による天平十二年（七四〇）の東国行幸の経路は、壬申の乱における天武天皇の行軍経路とほとんど一致し、禾津頓宮に三日間滞在した際には、天智天皇ゆかりの近江大津宮の故地と志賀山寺（崇福寺）に立ち寄っています。この行幸に引き続き進められた紫香楽宮の造営と甲賀寺における大仏造立は、聖武天皇の仏教による鎮護国家思想を具現化したものとして極めて重要です。

近江においては、天智天皇による大津宮遷都以前から、各地で多くの寺院が造営され、また聖武天皇の時代の前後には、紫香楽宮、国分寺、保良宮、石山寺など、宮都と寺院の造営が相次ぎ、華麗な天平文化が近江でも花開いたと考えられます。その多くは今日失われていますが、石山寺には、その一端を窺える多くの文化財が伝えられています。事実、石山寺本尊右脇侍像



大津市崇福寺跡塔心礎から出土した舍利容器(国宝)

の心木は、石山寺創建当初に関わる貴重な遺品であることが近年明らかにされましたし、光明皇后発願による写経をはじめ、多くの奈良写経も当時を伝える重要なものです。

【安土会場の主な展示資料】

◎：国宝、○：国重要文化財

および納置品一括

宮町遺跡出土土器類・木簡類

史跡紫香楽宮跡出土蓮華文軒丸瓦

新宮神社遺跡出土橋脚部材・木製品・土器類

鍛冶屋敷遺跡出土鑄造関連遺物

膳所城下町遺跡出土遺物・断面剥ぎ取り

◎興福寺旧境内（二乗院宸殿下層）出土仏前具

平城京跡長屋王邸跡出土三彩陶器・木簡類

恭仁宮跡出土瓦類・土器類

難波宮跡出土重圈文軒瓦・土器類・木製鏡



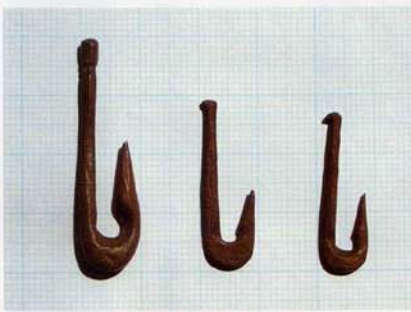
史跡紫香楽宮跡(甲賀寺跡)出土 軒丸瓦

(財) 滋賀県文化財保護協会 調査整理課通信

縄文時代の水辺の暮らし、鮮やかに

—入江内湖遺跡の整理調査から—

米原駅の西側にかつて広がっていた入江内湖では、一般国道八号線バイパス工事に伴い平成一四〜一六年度に実施した発掘調査により縄文時代早期前葉〜後期初頭（約六五〇〇〜四〇〇〇年前）の丸木舟等が発見されています。今回は、この発掘調査の一六年度の整理調査で新たに見つかった資料を紹介します。まず、コイ・フナ・ギギ等淡水魚の数多くの骨や歯・鱗やこれらを捕獲するためのヤス・漁網用石錘と共に関西地方でも最古級と考えられる釣針の存在が明らかになりました。この発見は、縄文時代の琵琶湖では、既に多様な漁法が行われていたことを示す資料として、興味深いものです。また、土器で煮炊きされている状態で発見されたユリ科（か）の球根も、スッポン等の爬虫類や鳥類の他種類の動物の骨等と併せて、縄文時代の豊かな食の実態を鮮やかに蘇らせる資料として意義深いものです。



鹿の角で作られた釣針

収蔵資料紹介

槽作り琴

針江浜遺跡出土

長さ一三二cm 残存幅九cm

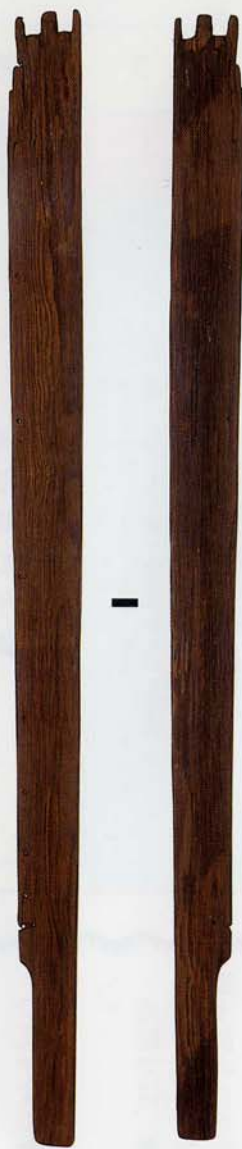
高島市新旭町針江（旧高島郡新旭町針江）に所在する針江浜遺跡は、琵琶湖岸から湖中にかけて広がっています。調査の結果、弥生時代前期の集落の一部や弥生時代中期の埋没林などが発見され、湖岸から沖合二〇〇mにまで広範囲に広がる遺跡であることがわかりました。遺物も、良好な状態の木製品など多数出土しています。

今回はその中から、一九八四年の調査時に、弥生時代末から古墳時代初期にかけての遺物を含む層から出土した琴を紹介します。「槽作り」と呼ばれるタイプの琴で、針葉樹製です。本来はこの下に共鳴槽と呼ばれる箱状の部分が付いていま

た。上端の突起に弦をかけ、下に向かって強く張ります。端に並んであいている穴は、共鳴槽を組み合わせていた木釘の跡です。一番下の釘穴だけが横に二つ並んでいること、弦掛け突起の下にわずかに段が作られていることから、箱状の共鳴槽があったことがわかります。

弥生時代から古墳時代にかけての琴は近年出土事例が増えており、槽作り以外にもいくつかのバリエーションがあることや、この時期の槽作り琴は六弦のものがほとんどであること、槽作り琴には大型のものが多くことなどがわかってきています。この琴も、おそらく中央付近から縦に半分に分れているので、長軸はほぼ完存しているのです。かなり細長いものだったようです。有力者の葬儀の時に歌や踊りを行うという記述が『魏志倭人伝』に見られることから、針江浜遺跡を含む針江遺跡群における首長に関わる楽器だった可能性があります。

（阿刀弘史）



安土城郭調査研究所通信

内堀を探せ〜平成一七年度の事業

今年の発掘は、安土城跡大手前駐車場の調査を行います。ここは、現在も残る内堀の痕跡がさらに広がっていたことが予想される場所です。当時の内堀の範囲が確認できるとともに、大手門前の空間がどのように広がっていたかについても手がかりが得られるものも期待しています。

環境整備は昨年度に引き続き、大手門周辺西側地区の整備工事を行います。石塁と石塁端の西虎口、上段郭で発見されたカマド跡や井戸跡などの復元を行います。

古文書調査は、安土町大字常楽寺区有文書の調査を行います。常楽寺は中世から港があった場所で、城下町以前からの集落です。安土城や城下町についての新資料の発見を目指します。

昨年度からスタートした史跡観音寺城跡保存管理計画策定事業は、今年保存管理計画をまとめます。将来の調査整備事業の実施にむけて、第一段階が完了します。

*「淡海の城」友の会のホームページを開設しました。是非一度ご覧ください。

(<http://ouninoshiro.hp.infoseek.co.jp>)

博物館の主な催し

10月	9月	8月	7月	月
10月8日～11月6日 秋季特別展 「蒲生氏郷の時代」	7月16日～9月11日 第30回企画展 「聖武天皇とその時代—天平文化と近江—」			展示
16日(日) 体験博物館「忍者になつてみよう」 時間：午後1時30分～約2時間 場所：当館敷地内 材料費：100円(実費) 場所：当館敷地内 材料費：100円(実費)	10日(祝) 秋のお茶会(当日受付、約100名) 時間：午前10時半～午後3時 場所：当館敷地内 会費：500円(実費)	11日(日) 博物館講座「東大寺の考古学」(当日受付、140名) 講師：平松良雄氏(檀原考古学研究所主任研究員) 時間：午後1時30分～午後3時	24日(日) 博物館講座「紫香楽宮と甲賀寺」(当日受付、140名) 講師：鈴木良章氏(甲賀市教育委員会埋蔵文化財係長) 時間：午後1時30分～午後3時	28日(木) 子ども考古学教室(2日とも1講座、要申込、先着40名) 時間：2日とも午後1時30分から約3時間 対象：小学5・6年生(保護者同伴可)
21日(日) 夏休み自由研究相談 対象：小学生 参加費：無料 時間：午前10時～午後4時 場所：当館図書室	4日(日) 名作映画鑑賞会(当日受付、140名) 作品名：「大仏開眼」(一九五二年 大映作品) 時間：午後1時30分	15日(月) 体験博物館「忍者になつてみよう」(要申込、先着30名) 時間：午後1時30分～約2時間 場所：当館敷地内 材料費：100円(実費)	7日(日) 記念講演会 時間：午後1時30分～午後5時 「紫香楽宮の造営と難波宮」 直木孝次郎氏(大阪市立大学名誉教授) 井上一稔氏(同志社大学教授)	29日(金) ミュージアムコンサート(当日受付、100名) 時間：午後1時30分～午後3時30分 場所：当館エンターテインメントホール 参加費：無料
14日(日) 企画展関連シンポジウム「聖武天皇とその時代」(当日受付、140名) 「聖武天皇の東国行幸」 遠山美都男氏(学習院大学講師)	13日(土) 体験博物館「勾玉を作る」(要申込、先着各20名) 時間：午前10時～午後1時30分、各約2時間 場所：当館敷地内 材料費：500円(実費)	14日(日) 事例報告1「天津市騰所城下町遺跡の調査」 大崎哲人(滋賀県文化財保護協会主任) 事例報告2「甲賀市鍛冶屋敷遺跡の調査」 畑中英二(滋賀県文化財保護協会主任)	31日(日) 「天平彫刻について」 直木孝次郎氏(大阪市立大学名誉教授)	28日(木) 子ども考古学教室(2日とも1講座、要申込、先着40名) 時間：2日とも午後1時30分から約3時間 対象：小学5・6年生(保護者同伴可)

博物館の行事

*博物館講座は当館2階セミナールームで実施(無料)

「近江風土記の丘を描こう」

親子写生大会 52名が参加

当館では、地域の皆さんに親しまれる博物館をめざして各種の催し物を実施していますが、その一つとして「近江風土記の丘を描こう」親子写生大会を毎年開催しています。

「近江風土記の丘」の中核施設である当館の周辺には豊かな自然や多くの文化財が存在しており、これらを親子で楽しく描いていただく催し物です。

今年は、予定していた5月7日が雨模様だったため、翌5月8日(日)に開催しました。当日は朝からさわやかな天気となり、みずみずしい緑の中で52名の参加者がそれぞれ腕をふるわれました。また、今年は祖父・祖母の方も多く参加され「家族写生大会」になりました。

作品の審査は滋賀県美術協会理事長の鶴房健蔵氏にお願いし、子供の作品については最優秀賞(信長賞)の辻裕人さんの作品をはじめ、優秀賞(秀吉賞)3点、佳作(風土記の丘賞)6点の合計10点が入賞作品に選ばれました。また大人の作品からは7点が入選しました。

審査評により「家族で楽しく写生大会に来た感じがでている作品が多かった。写生対象に対しての興味関心や、描こうとする意気込みに注目して審査した。楽しいのびやかな、子供らしさの出ている作品が評価できる」とのことでした。

6月19日には10名の入賞者に対する表彰式を行います。



▲審査風景

おおてみち 第52号
平成17年(2005年)7月15日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311 滋賀県蒲生郡安土町下豊浦6678 TEL 0748-46-2424
E-mail: gakugei@azuchi-museum.or.jp URL http://www.azuchi-museum.or.jp